

第1回新型コロナウイルス感染症専門家会議・議事概要

日時：令和2年3月25日19:00～21:00

場所：沖縄県医師会館

1 沖縄県の感染状況の評価について

- (1) 県内においては、地域的な流行は発生していないが、海外、県外で感染した移入例が相次いで報告されており。東京などでは、感染源不明例が相次いで報告されているので留意する必要がある。
- (2) 高齢者介護施設等、感染が拡大した場合に重症化するリスクが高い職場で働く者が、県外へ渡航後に、発熱などの症状が現れ、クリニックを受診した場合、検査されず、施設で感染が拡大する可能性がある。このような方を指定医療機関へつなげ、検査を行うため、高齢者介護施設等及びクリニックへ周知する必要がある。
- (3) 沖縄県内の検査は、必要な人に対し概ね適切に行われている。

2 県主催イベントに対する意見

- (1) 2月の状況に比べ危機感が薄れているように感じる。県内でも移入例がに増加している。知事から強いメッセージを発する必要がある。
- (2) 現在のところ感染経路が明らかであるが、感染源不明の孤発例が確認された場合、イベント自粛を再検討する必要がある。
- (3) 特定多数で換気、手指消毒、症状のない方を対象とするイベントであれば開催してもいいのではないか。高齢者や病気にかかりやすい方を対象とするイベントは当然自粛すべきである。
- (4) 現段階で屋外でのイベント等は、開催しても良いと考える。ただし、その場合でもトイレなどの消毒は徹底する必要がある。
- (5) 3月に入って、世界的に流行が拡大し、国内でも患者報告が増加している地域があるため油断してはいけない。医療現場の危機感と県民や旅行客などとの意識が乖離している。

3 今後の医療体制について

- (1) 患者が大幅に増えたときに備えた病床を確保する必要がある。
- (2) 何も対策を行わなかった場合、ピーク時の1日患者数は、最大で4,720人、入院患者は2,139人、重症者は73名出ると試算されている。
- (3) そのため病院を指定し病棟単位で病床を確保する必要がある。また、重症者については、一部の医療機関のICU、HCUに集中して治療に当たる必要がある。

(4) 県は、取り急ぎ1,000床を目標に県案を作成し、医師会等と協議していくこととする。

4 高齢者施設等における感染予防対策

(1) 中部病院で作成した「高齢者施設における新型コロナウイルス感染症対策への対応指針」を県の指針として採用し、こども生活福祉部を通じて施設へ周知する。

(2) ただし、本指針は、流行期の対策であるため流行前の対策をわかりやすく示したものを作成する。